

プロジェクトを必ず成功させる 生産管理システム構築のすべて



発行 日本実業出版社
発売 2010年2月18日
A5版・304p. 2,940円
著者 北村友博

【内容紹介】

- ◆ 本書はシステムエンジニア並びに工場実務者を対象に、生産管理システム構築の着眼点と留意点をまとめたものです。一般に「生産管理システムは生産計画と購買を足したもの」と思われていますが業務の一部だけシステム化しても不十分です。
- ◆ 著者の豊富な経験にもとづいて工場業務の全体最適化に係るすべての業務を、体系的に取り上げて紹介しています。また工場の全機能を7つのサブシステムとしてとらえ、MRPやBOMをはじめシステムの要件定義の勘どころと、設計のポイントを具体的に説明しています。
- ◆ さらに、本書の内容を具体化した外部設計書を40ページ以上にわたって完全公開。生産管理システムを体系的に理解するためのヒントとなるだけではなく、テンプレートとして利用することができます。
- ◆ 本書はAmazonジャンル別で、しばしば1位となり生産管理分野では異例の増刷を重ねています。また日本生産管理学会の、2011年度学会賞[実務書部門]を受賞するなど、事実上、生産管理のデファクトスタンダードとなっています。

誌上レビュー

SEの必読書だ。大手製造業のCIO(最高情報責任者)を務めた著者が、「動かない/使われない生産管理システム」を撲滅するための極意を体系立てて解説。「七つのサブシステムで考える」「生産形態を六つの視点で分類」など実践的な内容が豊富である。付録の「外部設計書のひな形」も力作。要件定義の不備を検証するのに役立つ。「部品表」「在庫」といった用語解説も平易で、手元に置いておきたい1冊だ。--日経コンピュータ 2010/03/17

生産管理の目的は「CQD(原価・品質・納期)の向上を追求する仕組みづくり」であると著者はいう。製造業にとって生産管理システムは経営の明暗を分けるほど重要である。しかし不確実なデータが絡み合っている業務が多く、優れたシステムを構築することは難しい。同書では、ベンダー、ユーザーの両社に向けて、利用者が満足できる生産管理システム構築のノウハウを詳しく著した。それぞれの立場に精通した著者ならではの切り口でズバリと指南する。基礎知識から始まり柱となる7つのサブシステム、MRP、財務までを広い視点で論じている。最終章には著者らのノウハウを凝縮したパッケージソフトの外部設計書を掲載し、自社で進めるシステム開発のテンプレートとしても活用できるようになっている。ユーザー側はシステムに何を求め、SEはどう現場に情報を求めるか。システム開発に取り組む姿勢を力強く教えてくれる1冊である。--工場管理 2010/05